

『月世界小説』(2015年)

牧野 修／著 早川書房

1958年生れ。大阪芸術大学学術学部卒業。『月世界小説』は第36回日本SF大賞特別賞を受賞。

菱屋修介は友人に誘われ、プライド・パレードを見に行くことにしました。パレードの日は見事な晴天でしたが、突如、街中どこにいても聞こえるような大きな音でアポカリプティック・サウンドがきこえてきました。ざわめく中、空を見上げると天使が舞い降り、世界の終りを告げました。菱屋は惨劇の最中に投げ出されました。そんな彼が逃げ込んだ先は、自分の妄想世界である月世界でした。

『天使はモップを持って』(2003年)

近藤 史恵／著 実業之日本社

梶本大介は新入社員。ある日、勤務先の清掃作業員、キリコと出会います。キリコはブリーチした髪、ピアスだらけの耳、ミニスカートををはいた十七、八歳くらいの女の子。大介の想像する「掃除のおばちゃん」のイメージからは程遠いのですが、掃除の天才で社内の掃除を一人で行っています。

いつしか大介は、会社で起こった奇妙な事件についてキリコに相談するようになります。何度も無くなる大切な書類。突然マルチ商法に入会した社員。ロッカールームの盗難。いくつもの謎を、ゴミや汚れを手掛かりに、キリコがきれいに解決していくミステリー小説。



『記憶喪失になったぼくが見た世界』

(2011年)

坪倉 優介／著 朝日新聞出版

大学1年になったばかりの6月に交通事故ですべての記憶を失った坪倉さんが、草木染の職人として工房を設立するまでの日々が綴られています。坪倉さんの記憶喪失は日常生活から自分自身のことすべてに及び、それは平仮名の「あ」から覚え直さなければならない過酷なものでした。事故後3ヶ月で再び大学に通い、はじめて会う「友人」との会話にとまどう様子など、自己を失った著者ならではの気持ちにハッとさせられます。



『介護入門』(2004年)

モブ・ノリオ／著 文藝春秋

著者は大阪芸術大学芸術学部文芸学科卒業。2004年『介護入門』で第98回文学界新人賞、第131回芥川賞を受賞。

無職の「俺」は下半身不随の祖母の介護をしています。「俺」は麻薬中毒気味ですが、祖母の介護をすることによって世間とつながりを持っています。自宅介護を選択したことによる介護の苦しみ、誠意ある介護の妨げとなる肉親の存在など、介護をとおして浮き彫りになる実情が独特のリズムのある文章で描かれています。

『蘭学探偵 岩永淳庵 海坊主と河童』(2014年)

平屋 美樹／著 実業之日本社

物語の舞台は、田沼意次の頃の江戸時代。主人公の淳庵はうだつが上がらない蘭学者で、辰巳芸者の豆吉のところに居候しています。一見ダメ男の淳庵ですが、その行動力と頭のキレはなかなかのもの。科学の知識を駆使して、一見あやかしの仕業に見える難事件を次々に解決していきます。淳庵と豆吉の掛け合いも面白い、大江戸ミステリー短編集をお楽しみください。



『アカルイミライ』

何も起こらない平穏な日々は幸せすぎて平和すぎて気づかないことが多いけれど、やっぱり素晴らしい』(2011年)

紫舟／著 芸術生活社

著名な書家・紫舟さんが、何気ない日常に揺れる心を、芸術家らしい繊細で鋭い感覚で描きます。章は一つ一つが独立しているので、前から順番に読み進めても良いし、読書が苦手という方は、気になったタイトルから読み進めてみても良いかもしれません。力強かったり、柔らかかったり、遊びが効いていたり。紫舟さんの書く字そのもののような言葉の数々にふれてみませんか。

